

情報モラル
特別版

【ICT 活用実践紹介】

情報モラル「楽しいコミュニケーションをしよう」岡田の実践より

つかむ

考える

深める

振り返る



〇〇Teams ファイル共有機能〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

類型：A1 一斉学習：教員による教材の提示

内容：本時の流れなどを PDF 化しておき、Teams の「ファイル」に入れておく。

備考：児童は、学習が始まる前に、本時は何をするのか、どんなアプリを使うのかを事前（休み時間など）に自分からファイルを開き、把握しておく。授業に対して見通しを持つことで主体的に取り組める。



〇〇スクリーンショット+スプリットスクリーン〇〇〇〇〇〇〇

類型：—（課題解決をやすくするための操作）

内容：Teams のファイルに配布したものをスクリーンショットしておく。課題をこなしながら、次の授業の流れを確認するために、スプリットスクリーンとして画面に出しておく。

備考：タブレットの画面が小さいため、見にくい時もあるが、必要に応じて児童が拡大縮小を行う。



〇〇MetaMoji ClassRoom モニタリング機能〇〇〇〇〇〇〇〇〇

類型：C2 協働での意見整理につながる

内容：「ノート」に児童が動かせる色別のカードを作っておき、その中から1枚カードを選び、拡大する。仲間のカードを俯瞰して、気が付いたことを発表する。

備考：モニタリングをすると画面が小さくなり見にくいですが、色別のカードにしておくとう違いが分かりやすい。

〇〇MetaMoji ClassRoom シェアリング機能〇〇〇〇〇〇〇〇〇

類型：C2 協働学習：協働での意見整理

内容：見方・考え方を広げるために、教師がシェアリング機能を on にする。児童は自分の見方、仲間の見方を比べる

【岡田のおもいつ記】

この教材は、LINE と静岡大学が共同で制作した教材を、高山市の ICT 環境に合わせて活用しています。今回の教材では児童の「ネットコミュニケーションリテラシー」を育てるために以下の3つの達成すべき狙いとしています。

- ① コミュニケーションを行う際に重要となる、自分と相手との考え方や感じ方の「ちがい」に気がつくことができる。
- ② ネットの特性を理解し、ネット上では相手の表情や雰囲気がわからないので、「誤解」が生まれやすいことに気がつくことができる。
- ③ 自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法について考えることができる。

よく「自分がされて嫌なことは、人にしない。」という指導をしますが、今回の授業の観点からいうと、「自分がされて嫌なことと人がされて嫌なことは違うので、より相手のことを考えて接すべき」という指導のほうが良いと思います。